

研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

胃癌に対する腹腔鏡下手術における短期および長期成績に関する後ろ向き研究

1. 研究の対象および研究対象期間

1999年4月～2021年12月に当院で胃がんの手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

早期胃癌に対する腹腔鏡手術は1994年に日本で初めて報告されて以来、急速に普及し現在では根治性と安全性が確立された標準術式として考えられています。当院では1999年より早期胃癌に対し腹腔鏡手術を導入し、手技が定型化されてからは進行胃癌にも適応を拡大し、さらに高度進行胃癌に対して術前化学療法を行い縮小効果が認められた症例に対して積極的に腹腔鏡手術を適応して行っています。また、積極的に残胃癌や開腹既往のある症例にも適応を広げ、現在までに約900症例の腹腔鏡下胃癌手術を経験しました。術式も幽門側胃切除、胃全摘（残胃全摘）、噴門側胃切除、胃空腸バイパス術、局所切除等の様々な術式にも適応して行なっています。今回、蓄積された胃癌に対する腹腔鏡下手術における短期及び長期治療成績を後方視的に検討し、実際に開腹手術や全国平均の治療成績と比較して当院で行われている胃癌に対する腹腔鏡下手術の有用性、安全性を検証することを目的とします。

研究期間

医学研究科人を対象とする研究等に関する倫理委員会（現：昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会）承認後、研究機関の長による研究実施許可を得てから2025年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究対象者について、下記の臨床情報を電子カルテより取得します。

- ① 患者背景（年齢、性別、身長、体重、症状の有無、既往歴、腹部手術歴、手術時併存疾患）
- ② 術前検査所見（内視鏡検査所見、CT検査所見、血液検査所見）
- ③ 手術成績（手術内容、手術時間、出血量、術中合併症、リンパ節郭清の程度、術後合併症）
- ④ 切除標本の病理学的所見（病理組織学的診断）
- ⑤ 術後経過、再発の有無、予後

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院（医学部外科学講座消化器一般外科学部門） 氏名：山崎 公靖

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8541

研究責任者：

所属：昭和大学病院（医学部外科学講座消化器一般外科学部門） 氏名：山崎 公靖